

中学校美術

指導のポイント

表現と鑑賞を関連させ、発想や構想、鑑賞でも働く中心となる考え(造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え)を明確にして指導することが大切です。

評価のポイント

表現活動における造形的な視点についての理解や創造的に表す技能、発想や構想に関する資質・能力は、制作が進む中で徐々に形に現れるものであるため、制作途中と完成作品と両方から評価し、高まりを読み取ることが大切です。

1 美術科における資質・能力と内容のまとまりの関係

	知識及び技能		思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
	知識	技能		
感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現	[共通事項]ア,イ	「A表現」(2)ア	「A表現」(1)ア	—
目的や機能などを考えた表現	[共通事項]ア,イ	「A表現」(2)ア	「A表現」(1)イ(ア)(イ)(ウ)	—
作品や美術文化などの鑑賞	[共通事項]ア,イ	—	「B鑑賞」(1)ア,イ	—

2 観点別評価のポイント

知識・技能

知識・技能(知識):表現及び鑑賞の活動を通して、形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果を理解することや、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解することについて評価します。ここでの知識は、単に暗記することに終始するような知識ではなく、美術の学習の中で生きて働く知識として実感的に理解した実現状況を評価することが大切です。

知識・技能(技能):造形的な見方・考え方を働かせて、発想や構想をしたことなどを基に表すために、材料、用具などの表現方法を身に付け、感性や造形感覚、美的感覚などを働かせて、表現方法を工夫し創造的に表すなどの技能に関する資質・能力を評価します。

思考・判断・表現

思考・判断・表現(発想や構想):造形的な見方・考え方を働かせて、自己の内面などを見つめて、感じ取ったことや考えたことなどを基に主題を生み出し、それらを基に創造的な構成を工夫したり、目的や条件などを基に主題を生み出し、分かりやすさや使いやすさと美しさなどの調和を考え、構想を練ったりするなどの発想や構想に関する資質・能力を評価します。

思考・判断・表現(鑑賞):造形的な見方・考え方を働かせて、自然や生活の中の造形、美術作品や文化遺産などから、よさや美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫、生活や社会の中の美術の働きや美術文化について考えるなどして見方や感じ方を広げたり深めたりする鑑賞に関する資質・能力を評価します。

主体的に学習に取り組む態度

生徒が「知識及び技能」、「思考力, 判断力, 表現力等」を身に付けようとしたり、発揮しようとしたりすることへ向かう主体的な学習に対する態度を評価します。例えば表現活動では、アイデアスケッチを熱心に繰り返し描いたり、絵の具で色を試したり塗り重ねたりするような能動的な姿を捉えることが考えられます。また、鑑賞活動では、生徒が主体的に作品などの造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深めようとしていく姿を捉えることが考えられます。

2 学習評価の進め方について

1 題材の目標を作成する

- 以下を踏まえて作成
・学習指導要領の目標や内容 ・学習指導要領解説等
・児童の実態 ・前題材までの学習状況等

2 題材の評価規準を作成する

- 1, 2 を踏まえ、評価場面や評価方法を計画。
- どのような評価の資料(生徒の反応やノート、ワークシート、作品等)を基に、「おおむね満足できる」状況(B)と評価するかを考えた時、「努力を要する」状況(C)への手立て等を考えたりする。

3 「指導と評価の計画」を作成する

- 3 に沿って観点別学習状況の評価を行い、**生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる。**

授業を行う

4 観点ごとに総括する

- 集めた評価の資料や、それに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価(A, B, C)を行う。

3 指導と評価の例

事例 第1学年「感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現と鑑賞」
題材名「花の命を感じて」（参考資料 p.51）

題材の目標設定のPOINT

「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」は「内容」を参考にし、「学びに向かう人間性等」は、学年の目標(3)を参考にします。題材に即してどのような内容が当てはまるのか書き換えたり削除したりします。

□題材の目標

- (1) ・形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、美しさや生命感などを全体のイメージで捉えることを理解する。
 (〔共通事項〕ア、イ)
 ・水彩絵の具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表す。
 (「A表現」(2))
- (2) ・花を見つめ感じ取った花や葉の形や色彩の特徴や美しさ、生命感などを基に主題を生み出し、画面全体と花や葉との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練る。
 (「A表現」(1)ア)
 ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げる。
 (「B鑑賞」(1)ア)
- (3) ・美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく花の美しさや生命感などを基に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。

□題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、 <u>美しさや生命感</u> などを全体のイメージで捉えることを理解している。 技 <u>水彩絵の具の生かし方</u> などを身に付け、意図に応じて工夫して表している。	発 <u>花</u> を見つめ感じ取った <u>花や葉</u> の形や色彩の特徴や美しさ、 <u>生命感</u> などを基に主題を生み出し、 <u>画面全体と花や葉</u> との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 鑑 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。	態表 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく <u>花の美しさや生命感</u> などを基に <u>構想を練ったり、意図に応じて工夫して表したりする</u> 表現の学習活動に取り組もうとしている。 態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく <u>造形的なよさや美しさ</u> を感じ取り、 <u>作者の心情や表現の意図と工夫などについて考える</u> などの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

□指導と評価の計画

時	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法等		
		知・技	思	態
1	「花」をテーマにした作品を鑑賞し、作者の意図や表し方などについて意見を述べ合いながら、形や色彩などが感情にもたらす効果や全体のイメージで捉えることを理解する。	知 【ワークシート・発言の内容】		態表 【ワークシート・活動の様子】
2	興味をもった花や葉の形や色彩の特徴などから感じたことや考えたことを言葉で書き表したりしながら、主題を生み出す。		発 【ワークシート】	態表 【ワークシート・活動の様子】
3	主題を基に、画面全体と花や葉との関係を考え、創造的な構成を工夫し構想を練る。		【アイデアスケッチ】 発	【アイデアスケッチ・活動の様子】 態表
4	形や色彩などが感情にもたらす効果などを考えながら、様々な水彩絵の具の表し方を試す。	技 【試作の作品】		態表 【試作の作品・活動の様子】
5	自分の意図に応じて、水彩絵の具や筆などの使い方を工夫して表す。また、制作の途中に鑑賞を行い、より表したいものを明確にしていくなどしながら作品を完成させる。	【制作途中の作品・活動の様子】 知・技		【制作途中の作品・活動の様子】 態表
6				
7	お互いの完成した作品を鑑賞し、作品から感じたことや考えたことを説明し合う。	知 【ワークシート・発言の内容】	鑑 【発言の内容・ワークシート・活動の様子】	態鑑 【発言の内容・ワークシート・活動の様子】 態鑑
<授業外:題材が終了後>		知・技	鑑 発	

題材の評価基準の設定のPOINT

具体的な活動を踏まえ言葉を省略や変更したりするなどしている。(下線部は変更箇所)。

□指導に生かす評価

生徒の学習の実現状況を見取り、個に応じた支援を行うなど、教師の指導の改善につなげるために行います。

□記録に残す評価

題材の観点別学習状況の評価の総括に用います。ここでの評価が最終的に評定の総括にも用いられることになります。

知・技の評価は、完成作品やワークシートなどから再確認し、必要に応じて修正します。【完成作品、アイデアスケッチ、ワークシート】

鑑の評価は、作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えて見方や感じ方を広げられているかをワークシートで見取り評価します。

発の評価は、発想や構想について、主題や構想の工夫などを記述したワークシート等を完成作品と併せて再度見取り必要に応じて修正します。【完成作品、アイデアスケッチ、ワークシート】